

ともだちみんな、やさしい

大原小学校

一年 こやま のりまさ

(※2013年度当時)

せんせいあのね。

ぼくは、虫とりして、木にぶつかって、

うでをこっせつしました。とてもいたくて、

ずきずきしました。ランドセルがからえな

くて、おかあさんに、まいにちはこんでも

らいました。

がっこうにつくと、ランドセルのかたづ

けが、ぼくひとりでは、できませんでした。

すずかちゃんが、

「もとうか。」

とやさしいこえでいいました。ぼくは、

うれしかったです。

バッタをつかまえたときのよう

うれしかったです。

つぎのひは、かいくんが、てつだ

てくれました。

ゆなちゃんや、えなちゃんも、てつ

だててくれました。

ともだちみんな、やさしいです。

ぼくも、ともだちがこまっている

ときは、かいくんみたいに、

やさしくなりたいです。

この冊子の終わりに、こやま のりまさ さんの作文を紹介します。

こやま さんが腕を骨折し、学校で困っていた時に、友だちの一人から「もとうか。」という言葉
を投げかけられます。そして、この言葉の投げかけは、クラスのみんなにも広がっていきました。

こやま さんは、友だちが困っている時には、今度は自分が優しくかかわろうと思ったのです。
こやま さんは、いったいどんな言葉を友だちに投げかけるのでしょうか。

家庭で、学校で、そして地域や世界の国々と、これから私たちは様々な人たちと関わりながら生
きていくこととなります。言葉は、その関わりの中で人と人をつなぎ、誰もが差別されずに安心
して暮らしていける社会の実現に向けた大きな力にもなっていきます。

あなたは言葉をどうつかうのですか？